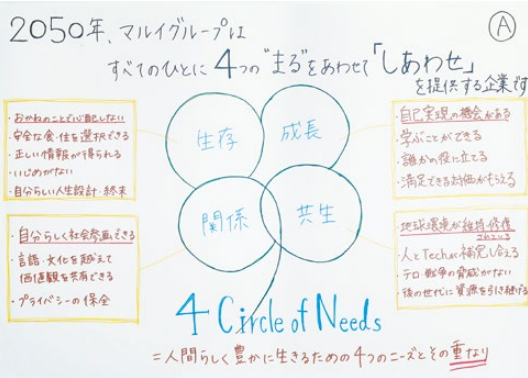


社員が起点となった
未来創造 ワークショップ

我 タチームAの発表内容は、「理想的な暮らしができる都市をまるごとプロデュースしてモデルケースにしてしまう」というものでした。未来を自分たちの手で責任を持って創っていきたいという想いです。この発表を通じて、一つのテーマをさまざまな視点・バックグラウンドを持つ人たちが自由な発想で深く話し込むことの大切さに改めて気づかれ、そのおかげで、参加当初の自分が思いもよらなかった大きなアウトプットを得ることができました。今後は、ビジョンをどのように実現させるか、企業として考え続けていかなくてははいけません。社員全員が常日頃から意識し、方向性を擦り合わせていくことを企業文化にしていきたいと思います。

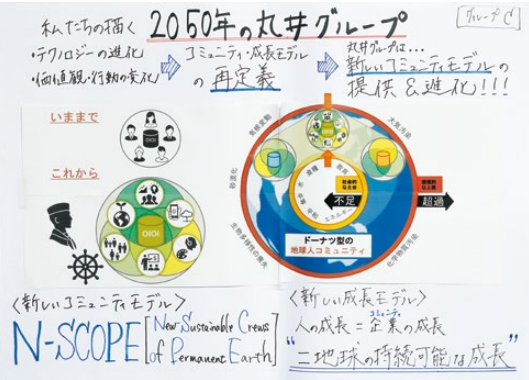


未来を自分たちの手で
責任を持って創っていきたい
という想いです。



喜多尾 仰
(株)エムアンドシーシステム
デジタルトランスフォーメーション推進本部
第2回 サステナビリティプロジェクトメンバー

「サステナビリティプロジェクト」に参加した社員は、まず30年後の外部環境分析を行い、確実に訪れる未来トレンドと、それに対して自分たちがめざしたい世界は何なのかを議論しました。その後メンバーを6つのグループに分け、それぞれ「丸井グループの2050年にありたい姿」を検討し、執行役員への直接提案を行いました。各グループの代表者6名が、それぞれの未来に込めた想いや、発表された長期ビジョンを受け、これから自分たちが何をすべきかを語ります。



すべての人が
「私らしさ」を活かしながら
共存・共栄する未来を
創りたいです。



矢野 夏樹
(株)丸井グループ
投資調査部
第2回 サステナビリティプロジェクトメンバー

自 分たちが未来に対して抱いている「希望」をいかに魅力的に伝えるかがポイントでした。「ビジョン2050」については、望む未来に向けて自分たちが先頭に立って「世界を創っていく」という宣言に強く共感しています。個人的には、すべての人に「居場所と役割」を提供する共創ビジネスによって、すべての人が「私らしさ」を活かしながら共存・共栄する未来を創っていきたいと思っています。しかし、丸井グループだけではビジョンの実現はできません。近い未来像を描く「仲間」との協力を通じ、ビジョンの実現を加速させることが重要です。そのためには、私たち一人ひとりがグループの外に出ていき、新しい仲間を作り、連携を深めるハブ人材になっていく必要があると思います。



私 たちは地球上の人々が国境を超えて利他的な思考・行動を取り、グローバル課題解決をしていく2050年を理想としました。丸井グループが今まで行ってきた事業は、「すべての人に機会の平等を提供すること」です。格差のある社会では実現不可能なこの理想の世界に向け、丸井グループの培ってきた力とテクノロジーを使って不平等の是正の手助けをしたいと考えました。私は「世代間をつなぐビジネス」のヒューマン・ビジネスに興味があります。ミレニアル世代と呼ばれている私たちが、次のZ世代へ、またその先へ…将来世代への橋渡し役を担うことで、より近い立場で共感しながら、共に未来を創っていくことができたらと思うと、とてもワクワクします。

将来世代への橋渡し役として、
より近い立場で共感しながら
共に未来を創りたいです。



渡邊 えりか
(株)丸井
営業企画部
第2回 サステナビリティプロジェクトメンバー

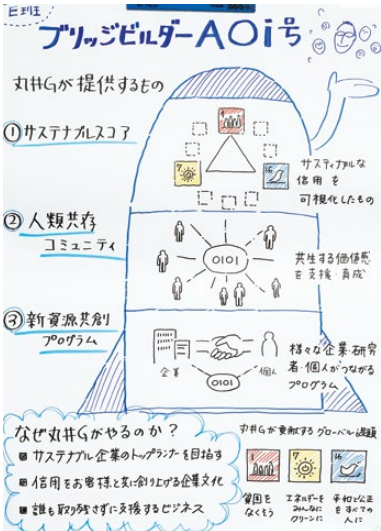


瀬田 祐佳
(株)エポスカード
有楽町 マルイ ファイナンシャル・インクルージョン担当
第2回 サステナビリティプロジェクトメンバー

国の豊かさより、
一人ひとりが豊かであるかが
価値である未来を描きました。



私 たちのグループは、国の豊かさより、一人ひとりが豊かであるかが価値ある社会であり、どの選択肢を選んでも「誰かが何かを傷つけない」、自分らしい豊かさをすべての人が選択できる未来を描きました。実際に発表された長期ビジョンにも、随所に私たちの意見が反映されており、驚きと嬉しさでいっぱいでした。現在、ファイナンシャル・インクルージョンを担当していますが、お金の価値や豊かさなど、何を「しあわせ」と捉えるかは人それぞれです。本質を見失わず、あらゆる選択肢を創り出し、最善最良を提供していきたいです。そしてこれを理想論で終わらせることのないよう、今と未来をしっかりとつなぎあわせ、着実に歩みを進めていかなければなりません。



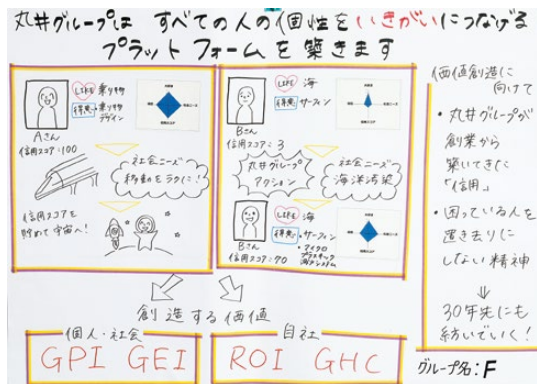
2 050年に人類は生存しているのかという視点で、地球環境を中心に未来を考えました。実際に発表された長期ビジョンは、二項対立という概念を念頭に置くことで、視野を広げたシナリオを考えることができるので、とても共感しました。ただ、少しスケールが大きくなり過ぎていて、具体的な行動が伴っているのかという点が課題ですが、「ビジョン2050」は、「お客さまのお役に立つ精神」と「フロントランナー精神」があれば実現できると思います。特に私は「共創ビジネス」で活躍していきたいです。すべての人がインクルードされる豊かな社会づくりのために、現業であるオムニチャネル事業本部で、モノづくり・EC・接客などを通じて活躍していきます。

「お客さまのお役に立つ」精神と
「フロントランナー精神」があれば
実現できると思います。



早坂 諒
(株)丸井
オムニチャネル事業本部
第2回サステナビリティプロジェクトメンバー

すべての人が生きがいを持てる世界をめざし、その生きがいを価値にできるビジネスに丸井グループとして取り組んでいきたいという想いで発表しました。そのために私たちは、「生きがい」という目に見えにくいことの指標化や、個性を生きがいにつなげるプラットフォームを構築していくことが必要だと考えています。丸井グループの長期ビジョンは、それを達成することでしあわせになる「人」の存在が見えるものになっているので、人が好きで、人との信用を築いていくコアバリューを持っている丸井グループだからこそ、実現できると思います。コアバリューとテクノロジーの力をいかに掛け合わせて、スピード感を持って進めていくかが実現への鍵です。



個性を生きがいにつなげる
プラットフォームを構築していくことが
必要だと考えています。



松山 優里
(株)丸井
ジェンダーフリーファッションプロジェクト担当
第2回サステナビリティプロジェクトメンバー

自ら手を挙げて集まったサステナビリティプロジェクトメンバーたち



プロジェクトに参加して、環境についての意識が高まり、地球との共存について知識が不足していたことに気づきました。また、将来世代の環境について考えるきっかけにもなり、今後は「世代間をつなぐビジネス」の分野で、環境改善にビジネスとして取り組んでいきたいです。地球環境の改善には、テクノロジーの力を活用することで、これまで諦めていたことも実現するようになっていくと思います。

森 雅生
(株)マルイホームサービス 営業部
第2回サステナビリティプロジェクトメンバー

プロジェクトを通じて、すべての事業が未来を創るもので、「できるか否か」ではなく「やりたいか否か」という軸が優先されるべきだと考えさせられました。「私たちはステークホルダーに何を提供したいのか」という明確な価値観と意思を持たないと、今後も選ばれる企業にならないと意識し、日々の仕事でも自らの意見を発信するようになりました。

槻田 有希
(株)丸井グループ 新規事業推進部
第1回サステナビリティプロジェクトメンバー



今後の社会は、今以上に加速度的に変化が激しくなり、対応のスピードも上げていく必要があることを体感し、自分の考える「時間軸のものさし」が長くなりました。私はファイナンス・インクルージョンの領域で、お金に不安を抱えているお客さまに、丸井グループらしい「お金の形(サービス)」を提供し、すべての人の「しあわせ」を支えていきたいです。

吉原 拓人
(株)エムアンドシーシステム システム企画本部
第1回サステナビリティプロジェクトメンバー

世の中に対応するためにはどうすべきかではなく、未来を創るために、逆算して今何ができるかを意識するようになりました。スケールの大きいビジョンですが、対立する二項の掛け合わせによって、新しいビジネスが生まれるのだと思います。ビジョン実現のためには、新しい挑戦を続ける必要があり、自分も未来に向けた価値を創造できるよう成長していきたいと思います。

石井 朝美
(株)丸井 上野 マルイ
第1回サステナビリティプロジェクトメンバー



長期的な視点で未来を考えたときに、最初はどうしても常識の枠を超えて考えることができませんでしたが、回を重ねるごとに自分自身の枠を打ち破ることができました。ビジョン自体は丸井グループらしいと感じる一方、非常に難しい道だとも思います。利益ありきではなく、想いを具現化し、具現化したもので利益を出せる仕組みを構築し続けることが重要です。

星野 哲也
(株)ムービング 人材開発・グループ物流本部
第1回サステナビリティプロジェクトメンバー

サステナビリティを自分事として捉え、お役立ちの視座が高まり、社会的価値の創造と利益のトレードオンの必要性を再認識しました。未来のさまざまな対立や格差は確実に起こりうる事実ですが、「しあわせ」はあらゆる人に平等であるべきで、安心して暮らせる社会を創ることが、丸井グループに勤める私たちの働く意義だと感じています。

野中 秀彦
(株)丸井グループ 人事部
第1回サステナビリティプロジェクトメンバー

